



## 1. 施策の概要

- **文書や画像等を含め大量のデータを扱う金融機関は、AIの活用可能性は高く、業務効率化による効果大きい。**他方、金融機関は、多くの法的規制の適用を受け、常にそれらへの適合性の確認と適切な対応が求められている。生成AIの法的規制については明確化されていないため、その利活用については、社内規定の整備等のAIガバナンスの確立や個人情報保護や機密情報等の取り扱い、説明可能性の担保等といった課題が存在している。こうしたことから、**金融機関は、金融規制の適合性や顧客への説明責任の観点から対顧客向けの生成AI利活用には慎重に判断**しているところ。
- 以上の状況を踏まえ、金融庁においては、**金融機関がまだ取り組むことができていない高度な生成AIを活用した実証実験を行うことで、AIの安全性やセキュリティの懸念を克服し、社会実装を実現可能とする事例を創出**することを目指す。具体的には、金融分野の生成AI利活用に関する実務に精通した民間事業者等に委託し、地域金融機関等と連携して**高度な生成AI技術を活用した実証を行い、地域金融機関による対顧客向けサービス等のユースケースを創出**する。これらは、AI基本計画が掲げる4つの基本的な方針のうち、「AI利活用の加速的推進（「AIを使う）」及び「AI開発力の戦略的強化（「AIを創る）」」に適合している。
- また、創出したユースケースについては、**法規制やコンプライアンス等の観点から評価、それに基づく改善まで行い、ハルシネーション等のリスク低減**を目指す。こうしたプロセスを**利用方針等としてとりまとめ、実証に参加していない他の地域金融機関等が生成AI技術を導入できるよう、情報提供**を行う。これらは、AI基本計画が掲げる4つの基本的な方針のうち、「AI利活用の加速的推進（「AIを使う）」及び「AIガバナンスの主導（「AIの信頼性を高める）」」に適合している。

## 2. 施策の対象・成果イメージ

- 対顧客向けサービス等のユースケースを創出し、ガバナンス面の評価等を行ったうえで、その内容を地域金融機関等に情報提供する。地域金融機関等において、本ユースケースを参考として生成AIの活用が進み、生産性が向上することによって、融資や本業支援の強化などの金融仲介機能の一層の発揮につながる。これにより、地域課題の解決や地域企業への資金繰り支援等、地域経済を活性化していくことができる。

## 3. 資金の流れ



# 金融機関における生成AI活用状況

金融機関の多くがレベル2に留まっており、レベル3に向け検討中



**レベル1**  
社内でChatGPT等の生成AIを個人が活用

- アイデアの壁打ち
- キャッチコピー等の案の作成
- 簡単なプログラミング
- 議事録の作成 等

**レベル2**  
RAG (※1) を用いて社内情報を取り込み、特定分野のアプリケーションを構築

※1：検索機能を強化した生成

- デジタルヒューマン (※2) の生成
  - 社内文章 (稟議書等) の作成
  - 営業支援 等
- ※2：現実の人物の表情等をコピーした仮想キャラクター

**レベル3**  
顧客に対して生成AIを使ったサービスの提供

- 顧客からの問合せ対応
- 融資に必要な情報収集 等

ユースケース例

(出典) 一般社団法人金融データ活用推進協会『金融機関における生成AIの開発・利用に関するガイドライン』(2024年12月)をもとに金融庁作成

本事業のスコープ

## 金融機関におけるAIガバナンスの現状

- ✓ 金融機関の半数以上が、レベル3クラスの高度な生成AI活用推進とリスク管理のバランスに苦慮
- ✓ 高度な生成AIを用いたAIエージェントは普及が見込まれるが、リスクに適応したガバナンス整備は金融機関にとって大きな負担

## 実証事業による利活用促進

- ✓ 地域金融機関による対顧客向けサービスを中心に、高度な生成AI技術を活用したユースケースの実証・評価
- ✓ 実証・評価の結果に加え、その過程において検出されたリスクに対する軽減策等について公表し、他の地域金融機関等が広く導入・利活用できるよう促す

## 4. 取組内容（システム概念図）

### ①生成AIユースケースの創出 「AIを創る」

#### ■ 地域金融機関における生成AIを活用した対顧客向けサービスの実証

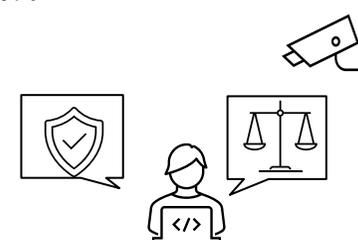


### ②ガバナンス評価・改善 「AIの信頼性を高める」

#### ■ 法令等に基づいたユースケースの評価・改善

##### (参考) 想定される生成AIのリスク

- ・個人情報・機密情報漏洩
- ・ハルシネーション
- ・乗っ取り
- ・著作権侵害



### ③利用方針等の公開及び横展開 「AIを使う」

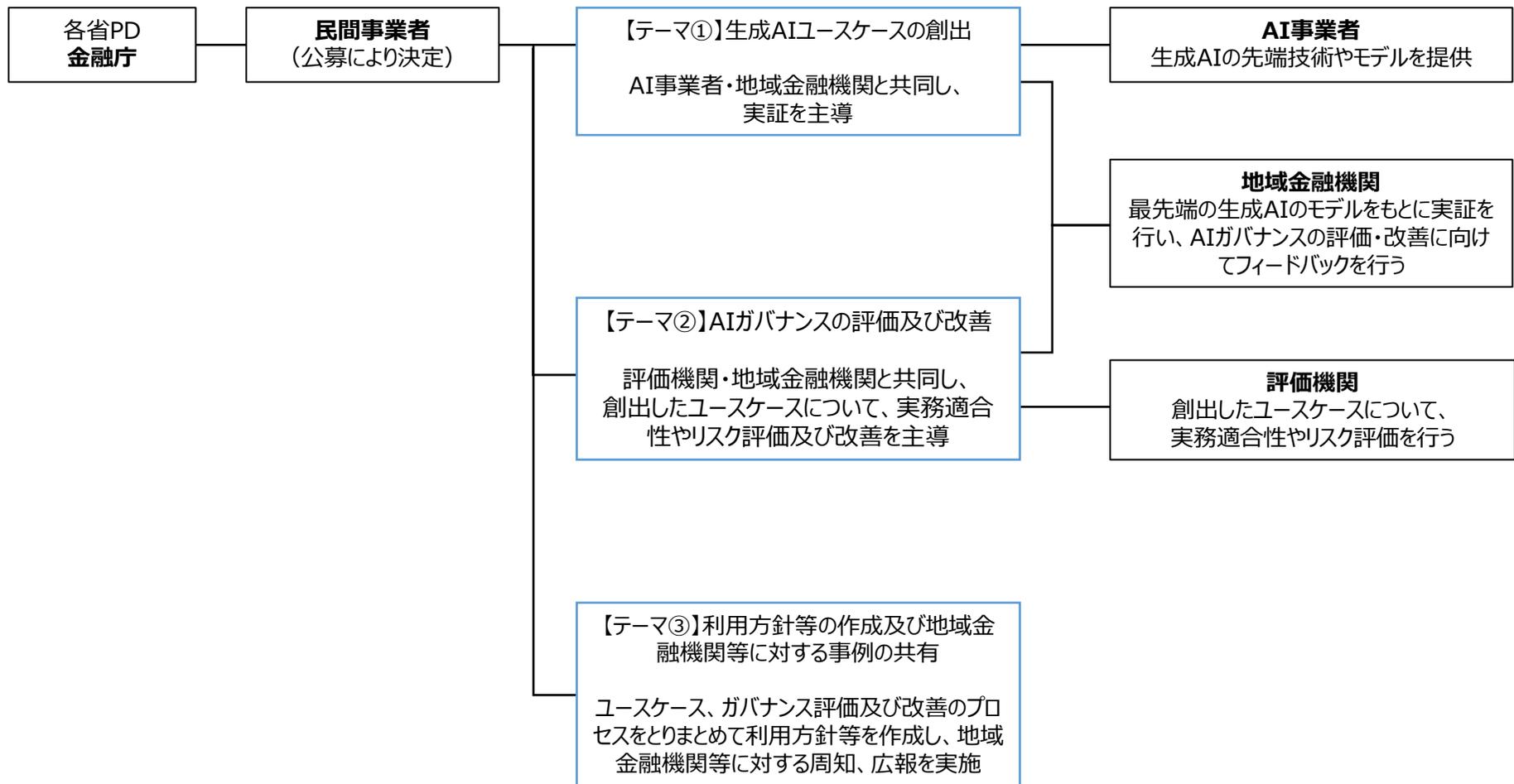
- 創出プロセスをまとめて、利用方針を作成
- 実証に参加していない地域金融機関のAI実装および業界内への横展開を支援



高度な生成AIの利活用による地域金融機関業務の効率化・高度化  
金融仲介機能の強化・コンサルティング業務のイノベーション

## 5. 取組スケジュール

テーマ名	令和7年度			令和8年度											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①生成AIユースケースの創出	本事業の 実施機関の 選定			生成AIを活用したユースケースの創出 民間事業者等に委託し、金融機関と連携しながら生成AIを活用したユースケースを創出する。											
②AIガバナンスの評価及び改善				AIガバナンス評価・改善 創出したユースケースについて、実務適合性やリスク評価及び改善を行う。											
③利用方針等の作成及び地域金融機関等に対する事例の共有				金融界への事例の共有 ①、②をとりまとめた上で、利用方針等を作成し、金融界に対し周知、広報する。											



テーマ名	実施内容の概要 到達目標 (KPI)
①生成AIユースケースの創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 金融分野の生成AI利活用に関して、実務に精通した民間事業者等に委託。地域金融機関等と連携し、高度な生成AI技術を活用した地域金融機関による対顧客向けサービス等のユースケースを創出。</li> <li>● 到達目標：高度な生成AI技術を活用した地域金融機関による対顧客向けサービス等のユースケースを2件以上創出（TRL 6：実証、BRL 6：実証）</li> </ul>
②AIガバナンスの評価及び改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 創出したユースケースについて、規定及び法令等に基づいて評価・改善を行う。</li> <li>● 到達目標：創出したユースケースについて、規定及び法令等に基づく評価・改善の実施（GRL 4：制度のコンセプト化）</li> </ul>
③利用方針等の作成及び地域金融機関等に対する事例の共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 実証実験に参加した地域金融機関以外の金融機関等が生成AIを実装できるよう、ユースケース、ガバナンス評価及び改善のプロセスをとりまとめて金融機関の生成AI利用方針等を整備し、公表及び周知する。</li> <li>● 到達目標：生成AIを活用した地域金融機関のDX化に向けた実証研究事業に係る評価報告書の公表及び周知（GRL 6：導入計画）</li> </ul>